

## ねぎ

### 1 予報（6月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
さび病	—	並	(1) 5月下旬の巡回調査では、例年どおり発生が確認されなかった。(±) (2) 6月の降水量はほぼ平年並の予報であり、特に感染を助長する条件ではない。(±)
べと病	—	並	(1) 5月下旬の巡回調査では、例年どおり発生が確認されなかった。(±) (2) 6月の降水量はほぼ平年並の予報であり、特に感染を助長する条件ではない。(±)
ネギコガ	早	第2世代 やや少	(1) 第1世代の孵化は、平年より早い4月7日に確認された。 (2) 5月下旬の巡回調査では、被害葉は確認されなかった。(—) (3) 6月の気温はほぼ平年並の予報であり、増殖を助長する条件ではない。(±)
ネギハモグリバエ	—	やや少	(1) 5月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。(—) (2) 6月の気温はほぼ平年並の予報であり、増殖を助長する条件ではない。(±)
ネギアザミウマ	—	やや多	(1) 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並で、被害度は平年よりやや高かった。(＋) (2) 6月の気温はほぼ平年並の予報であり、増殖を助長する条件ではない。(±)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(—)：少発要因、(—)：重要な少発要因

### 2 防除のポイント

#### 【共通事項】

- 降雨日が続くと、さび病、べと病等の発生が懸念されるので、これらの病害に効果のあるマンゼブ水和剤等による予防散布を行う。
- 病害虫発生初期の防除を心がけ、農薬散布時は散布ムラが生じないように畦の両側から茎葉散布を行う。
- 収穫期が近い初夏どり作型では、使用基準に注意して薬剤を選択する。

#### 【さび病】

- 圃場の観察に努め、発病がみられた圃場では直ちに薬剤防除を実施する。

#### 【べと病】

- 6月から予防的に薬剤防除を実施する。

#### 【ネギコガ】

- 有効積算温度による第2世代の防除時期は、県中南部では適期に達しているため、例年被害の多発している圃場では、直ちに防除する。
- 合成ピレスロイド剤は成虫の羽化盛期前～盛期、有機リン剤は羽化盛期～盛期後の散布で効果が高い（平成10年度試験研究成果参照）。

#### 【ネギハモグリバエ】

- 地域、年次により発生状況が大きく異なることから、発生状況に応じた防除を行う。

**【ネギアザミウマ】**

- (1) 圃場周辺、畦間の雑草除去に努める。
- (2) 適用のある薬剤を選択し、防除間隔が空かないように茎葉散布を実施する。
- (3) 合成ピレスロイド剤等、同一系統の連用を避け系統の異なる薬剤をローテーション散布する。